

ビジネスのヒントは何がもたらすのか

9月20日第1刷として出版された「1万円起業 片手間で初めてじゅうぶんな収入を稼ぐ方法」著書クリス・ギレポー 監訳者本田直之 発行所(株)飛鳥新社を購読しました。

私が目を通しまして感じた同書のエッセンスは

- ・ **起業のヒントは私たちの身近な生活の中にある。(アイデア)**
- ・ **起業することをそう身がまえて大そうに考えないで、初期資金は僅かで良い。(100\$ (1万円) ~1,000\$ (10万円))**
- ・ **柔軟な発想こそ大切で、女性、シニアの活躍のチャンスです。**
と云うところだと思います。

これまで私が起業に際して折にふれ伝えて来たことは、“何をもって起業するか”このテーマ探し(気付き)が重要だとして来ました。同書で著者は「起業」とはそんな大上段に構えて立向うものではなく、私達が日常的に生活する周囲を見回すなかでの「気付き」のなかにヒントは沢山ありますよと伝えていています。ですから初期資金も僅かで良いし、いかにそれを極力押えてスタートするか、即ち柔軟な発想での創意工夫を求めています。

また特に私が特筆に値とすることは、同書に使われている語彙(ごい)が平易で、上からの目線で解説や説得がなされているようなものでなく、日常会話のように話しかけられている感覚で大変興味深く、理解が深まりました。

このように誰しも起業の事前対策として、あらゆる角度からの情報やヒントの収集に貧欲さが求められますが、本書のように肩に力が入らないで手にする参考書としては有益な1冊であろうと思っています。

それから情報やヒントの入手に関連することですが、実際のビジネス活動のなかで諸々の課題が山積している状況下で、その解決の糸口たるヒントなども、人との接触での日常的な会話のなかにあることに気がつきます。

自分の課題の答えを探していて、それが相談と云う改まった形ではなく、親しく実力のある人との会話のなかに“ドンピシャ”のヒントがあったときの嬉しさは格別です。

なにごととも日常を大切にすることが必要だという話しですが、あらゆる活字に親しむこととともに、色々な立場の人との接触の会話のなかに、価値あるビジネスのヒントがダイヤモンドの如く隠されているのだと思います。